

第 23 期 滋賀県スポーツ推進審議会委員名簿

資料 1

※委員は五十音順（敬称略）

委員氏名	現職等	備考
おおた ちえこ 太田 千恵子	滋賀県障害者スポーツ協会 理事	
こすぎ ひでゆき 小杉 秀行	公募委員（東近江市スポーツ推進委員）	
ごとう けいいち 後藤 敬一	滋賀ダイハツ販売株式会社 会長	
こんどう たかよ 近藤 高代	近江高等学校 教諭	欠席
たけだ きとこ 武田 哲子	びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部 准教授	欠席
たなか ゆかり 田中 ゆかり	米原市立坂田小学校 教諭	欠席
ながい いずみ 永井 泉	滋賀県中学校体育連盟 会長	連盟会長交代
ながはま あきこ 永浜 明子	立命館大学スポーツ健康科学部 准教授	Web 出席
はしづめ けんじ 橋爪 建治	公益財団法人滋賀県スポーツ協会 常務理事	
はしもと たかこ 橋本 孝子	きのもとアイズ 理事	
みちまた たかひろ 道又 隆弘	京都新聞滋賀本社 編集部長	
やまおか あやか 山岡 彩加	公募委員（医療法人貴島会 貴島病院本院勤務）	
やまわき ひでのぶ 山脇 秀錬	オーパルオペテックス株式会社 代表取締役	
よこやま かつひこ 横山 勝彦	同志社大学スポーツ健康科学部 教授	
わだ ひろゆき 和田 裕行	彦根市 市長	市長会担当交代 欠席

委員 15 名（出席 11 名）

第2期滋賀県スポーツ推進計画の進捗状況について

	基本方針	政策	指標	計画策定時	現状	対前年比較	目標(R4)	目標達成率	達成状況
スポーツ推進の 具体的展開	I スポーツの力で 「豊かで健やかな生活」を創る!	1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実	成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率	(H28) 男性:35.6% 女性:36.8%	(R2) 男性:50.1% 女性:47.4%	↑ ↑	男女ともに65%以上	49.3% 37.6%	△ △
			子ども(男・女)の1週間の運動・スポーツ実施時間(※土日を含み、平日の授業を除く)【小学5年生】	(H28) 男子:590.7分 女子:347.2分	(R1) 男子:558.8分 女子:330.2分 ※R2調査中止	— —	男子:625分 女子:382分	— —	— —
		障害者の週1回以上のスポーツ実施率	(H29) 38.1%	(R2) 28.9%	—	65%以上	0%	△	
		2 スポーツの持つ多様な価値の共有	しがスポーツ大使の就任数	(H28) 26者	(R2) 40者	↑	50者以上	58.3%	△
		アスリートを採用した県内企業数	(H28) 32社	(R2) 44社	↑	45社以上	92.3%	○	
		スポーツボランティア登録者数(本県ボランティア登録システム利用)	(H28) 334人	(R2) 3,629人	↑	2,000人以上	100%	○	
	II スポーツの力で 「元気な地域」を創る!	3 スポーツ施設・環境の充実	総合型地域スポーツクラブで指導する有資格スポーツ指導者数	(H28) 267人	(R2) 283人	↑	370人以上	15.5%	△
			県内の公共スポーツ施設の利用者数	(H26) 6,617,409人	(R2) 3,483,340人	↓	730万人以上	0%	△
		4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化	民間団体等の実施するスポーツイベントへの県の後援件数	(H28) 155件	(R2) 52件	↓	200件以上	0%	△
			スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	(H28) 1,002万人	(R2) 766万人 ※速報値	↓	1,200万人以上	0%	△
	滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	(2017シーズン) 60,844人	(2020シーズン) 35,211人	↓	10万人以上	0%	△		
III スポーツの力で 「感動の滋賀」を創る!	5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大	国体総合順位	(H29) 39位	(R1) 30位 ※R2国体延期	—	8位以内	—	—	
		県障害者スポーツ大会の参加者数(実数)	(H29) 773人	(R2) 150人	↓	1,000人以上	0%	△	
	6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出	オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を始めた市町数	(H28) 3市	(R2) 5市	→	6市町以上	66.7%	○	

対前年比較の状況

前年度(R元年度)よりも増加している場合は「↑」、減少している場合は「↓」、増減なしの場合は「→」とする。

目標達成率の算定方法

$(R2\text{実績} - \text{基準}) / (R4\text{目標} - \text{基準}) \times 100$
 ※達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」とする。

達成状況の判断基準

達成率が60%以上の場合は「○」、60%に満たない場合は「△」とする。

第2期滋賀県スポーツ推進計画に基づく事業の実施状況

I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実

(1) 県民の運動・スポーツ実施率向上に向けた取組

○令和2年度調査によると、本県の成人の週1日以上スポーツ実施率は48.7%であり、令和元年度調査に比べ4.6ポイント上昇しているものの、国の実施率59.9%よりも低い状況となっている。

【成人の週1日以上運動・スポーツ実施率（国との比較）】

	H28	H29	H30	R1	R2	R4年目標
全国	42.5%	51.5%	55.1%	53.6%	59.9%	65%
滋賀県	36.0%	(36.0%)	39.9%	44.1%	48.7%	65%
差	△6.5	(△15.5%)	△15.2	△9.5	△11.2	—

(出典) 国：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(H28、29、30、R1)

県：「県民のスポーツライフにかかわるスポーツ実施状況調査」(H28)、
「滋賀県スポーツ実施状況調査」(H30、R1、R2)

○県民の運動・スポーツ実施率の向上を図るため、運動・スポーツ実施率の低い働き盛りの世代や女性等1,080名の方々に多様なニーズに対応しながら運動・スポーツに気軽に取り組めるよう、ウォーキングやオンライン運動教室等の複数のメニューを実施した。

《コロナ禍での影響と対応》

○運動教室の内容について、オンラインや密を避けた取組など、コロナ禍でも安心・安全に運動に取り組むことができるメニューを検討・実施した。

(2) 子どもの運動・スポーツ活動充実に向けた取組

○本県の子どもが、自ら進んで楽しみながら運動・スポーツに取り組めるようにするため、子どもの運動・スポーツ活動の充実に向けた取組を推進する。

①幼児期からの運動（遊び）・スポーツ活動の充実

②体育科、保健体育科の授業の充実

・子どもの体力向上推進事業

(運動機会の充実、授業改善、教員の指導力向上等)

・健やか元気アップ事業

(体育の出前講座(小学校等)、滋賀モデル研究・開発(中学校等)等)

《コロナ禍での影響と対応》

- 臨時休業が長期にわたり、当初の教育課程の編成が見直されたことで、体力低下が懸念された。また、計画していた事業等の開催時期や内容等で効果的な実施が困難となった。
- 科学的な知見を踏まえ、指導計画の順序の入れ替えや指導の工夫を行うとともに、感染症対策を講じて可能な範囲で実施することを求めた。

③運動部活動の活性化

- ・部活動指導員配置促進事業（部活動のあり方検討、人材バンクの充実）
- ・中体連・高体連活動振興事業（生徒の参加機会の確保等）

《コロナ禍での影響と対応》

- 体育大会等は感染症リスクが高いとの意見が多く、大会等の制限が加わったことにより、これまで積み上げてきた成果を発揮、披露する場や内容が著しく減少した。
- 科学的な知見を踏まえた記憶に残る代替大会等の開催を、感染症対策を講じたうえで実施検討を求める指導や支援を行った。

(3) 障害のある人の参加機会の拡大

- 障害のある方々が身近な地域でスポーツを実施できる環境を整備するため、総合型地域スポーツクラブ 9 か所で障害者スポーツ教室を実施し、全体で 68 回開催、延べ 784 名の参加があった。

《コロナ禍での影響と対応》

- 障害者スポーツ教室は、緊急事態宣言解除後の 6 月以降、各クラブで感染拡大防止対策をとりながら開催されたため、開催回数や参加者が前年度より減少した。

2 スポーツの持つ多様な価値の共有

(1) トップアスリート等との交流機会の創出

- 本県ゆかりのトップアスリートや全国で活躍するスポーツチーム 40 者を「しがスポーツ大使」に委嘱し、小学校等での講演会やスポーツ体験教室などに大使を派遣し、県民との交流を推進した。（令和 2 年度 16 件、交流者数 1,259 名）

《コロナ禍での影響と対応》

- 令和 2 年度前半の活動自粛の影響により、大使との交流事業が減少した。
- コロナ禍でスポーツ活動ができない子どもたち等に向けた、大使からの応援メッセージを動画等で発信した。

【交流事業の一例】

■スポーツ教室

大 使：滋賀レイクスターズ（バスケットボール B1 リーグ所属）

日 時：令和 2 年 8 月 29 日（土）

場 所：栗東市立大宝東小学校

交流者：葉山ミニバスケットボール部（スポーツ少年団）の団員 22 名

内 容：基礎、ドリブル、ディフェンス、シュートの練習や質疑応答等。

新型コロナウイルス対策として、体育館の入り口で検温や手指の消毒をし、体育館の窓は開放した。飴を用意し、熱中症対策も行った。



■スポーツイベント（2020 ハロウィンカップ in BIWAKO）

大 使：伊勢田愛さん（ウインドサーフィン）

日 時：令和 2 年 10 月 10 日（土）、11 日（日）

場 所：近江白浜および沖合

（高島市安曇川町下小川）

交流者：大学生 101 名

内 容：湖上での実技指導や、技術、理論等の解説および質疑応答等。

初心者の部のレースを艇走しやすい沿岸部で実施し、伊勢田氏がレース

前後に選手に積極的にアドバイスすることで、ウインドサーフィンの楽しさや達成感を感じてもらえるよう大会運営を工夫していた。



(2) アスリートの就職支援制度の充実

○平成 31 年 4 月に開設した「SHIGA アスリートナビ」を活用して競技力の高いアスリートと県内企業との就職マッチングを実施し、競技力の底上げを図った。

（令和 2 年度 アスリート 17 名／9 社採用）

(3) スポーツボランティア活動の応援・促進

○ワールドマスターズゲームズ 2021 関西や 2025 年に本県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会等の大規模スポーツイベントの開催を視野に入れ、オンラインによる研修等も取り入れながらボランティアの確保と育成を推進した。

・令和 3 年 3 月 31 日現在登録者数：3,629 名（うち令和 2 年度新規登録 250 名）

・研修会：18 回 782 名参加

・ボランティア活動参加者：延べ 1,018 名

《コロナ禍での影響と対応》

- コロナ禍でも安心して参加頂けるようオンラインでの研修を開催したほか、活躍の機会であるスポーツイベントの中止が相次いだことから、ボランティア登録者に向けてスポーツボランティアの魅力や基礎知識等をまとめた小冊子を作成・配布した。

Ⅱ スポーツの力で「元気な地域」を創る！

3 スポーツ施設・環境の充実

(1) 地域スポーツクラブの育成

- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援や地域スポーツ指導者研修会を実施した。

市町巡回指導等：19市町104回
アシスタントマネージャー養成研修：中止
地域スポーツ指導者研修：2回開催58名参加

《コロナ禍での影響と対応》

- 緊急事態宣言解除後、各クラブでは、感染拡大防止対策を講じながら活動を再開された。
- 一方で、多くの人が集まる研修会等については感染拡大防止の観点から中止された。

(2) 県立スポーツ施設等の整備状況

- 以下の県立施設等については、2025年開催の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会での活用はもとより、本県のスポーツ振興や県民の健康づくりに資する整備を進める。

① (仮称) 金亀公園

(仮称) 金亀公園は、両大会の主会場はもとより、将来のスポーツ振興やスポーツを通じた健康増進、地域の活性化のための施設として整備を進めており、令和4年度末の完成を目指し着実に整備に取り組む。

【整備スケジュール】

平成29年度～令和4年度



事業地南側から撮影（令和3年6月）

②滋賀アリーナ

老朽化が進み、施設が狭隘となっている現体育館（ウカルちゃんアリーナ）を、スポーツ会館が有するトレーニング機能を複合化させ、びわこ文化公園都市内に移設整備することとし、両大会の競技会場として活用することはもとより、県民のスポーツ・健康づくりの拠点施設とする。

令和4年12月の供用開始を目指し着実に整備に取り組む。

【整備スケジュール】

令和元年度～令和4年度



事業地南側から撮影（令和3年6月）

③琵琶湖漕艇場

消波装置の設置などのコース改修については令和2年4月に工事が完了しており、管理棟や艇庫の改築についても、令和3年3月に新施設を供用開始している。

※令和3年4月より、株式会社関西みらい銀行がネーミングライツパートナーとなり、琵琶湖漕艇場の愛称を「関西みらいローイングセンター」とした。

【整備スケジュール】

平成30年度～令和3年度



管理棟・艇庫入り口を撮影



管理棟・艇庫を琵琶湖から撮影

④OSPホッケースタジアム

人工芝の老朽化や照明設備の照度不足といった課題が生じていることや、オリンピック事前合宿、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西および国民スポーツ大会においてホッケー競技会場として活用することを踏まえ、人工芝の張替（東京オリンピック仕様）、照明設備の改修、自動散水設備の新設に係る工事を実施しており、令和2年7月にすべて完了した。

※令和2年4月より、大阪シーリング印刷株式会社がネーミングライツパートナーとなり、伊吹運動場の愛称を「OSPホッケースタジアム」とした。

【整備スケジュール】

平成30年度～令和2年度



⑤希望が丘文化公園

国民スポーツ大会において、ラグビーフットボール競技会場として活用することから、老朽化が進んでいる球技場・陸上競技場について、それぞれ人工芝への張替、天然芝の改修およびスポーツ会館の老朽化対策などを実施する。

【整備スケジュール】

令和元年度～令和4年度



球技場完成時写真



⑥（仮称）草津市立プール

廃止された県立スイミングセンターの代替機能を担うものとして、基本協定書に基づき、県が財政支援を実施する。

【整備スケジュール】

平成30年度～令和6年度



4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

(1) プロスポーツ・スポーツイベントを活かした地域の活性化

- 本県のスポーツ振興に欠かせない存在である県内プロスポーツチーム等の集客力や発信力を活用し、試合会場等で国スポ・障スポ等の大規模スポーツ大会のPRや県民の運動習慣化につながる啓発等を行った。
- 各チームのホームゲーム等で、試合を観戦された約3万5千人の方々やSNS登録者の約9万6千人に広報・啓発を行った。

対象チーム	観客数	SNS登録者数
滋賀レイクスターズ(バスケットボール)	27,613人	59,000人
オセアン滋賀ブラックス(野球)	3,469人	10,800人
MIOびわこ滋賀(サッカー)	2,479人	6,900人
東レアローズ(バレーボール)	1,650人	20,000人

《コロナ禍での影響と対応》

- 感染症拡大の影響によりホームゲームの中止や観覧制限があったことから、チームの保有するSNS等を活用した発信や所属選手を活用した啓発ポスターの掲出を行い、県内のスポーツ機運の醸成を図った。
- 県民が安心安全に試合を観戦いただけるよう、各チームがホームゲームにおいて実施する新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に係る経費について、支援を行った。

(2) ワールドマスターゲームズ 2021 関西

- 新型コロナウイルスの影響により大会は1年延期となったが、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催に向け、ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会、滋賀実行委員会、開催市実行委員会の3者で連携し、具体的な準備を進めている。大会全体で公式35競技59種目を開催することとしており、本県では公式6競技、オープン2競技を開催する予定となっている。

【公式競技日程およびエントリー状況(R3.6末現在)】

競技種目 [開催市]	予定募集枠 (想定参加者数)	エントリー数	5/13 金	14 土	15 日	16 月	17 火	18 水	19 木	20 金	21 土	22 日	23 月	24 火	25 水	26 木	27 金	28 土	5/29 日
野球 (軟式野球) [東近江市] [守山市]	66チーム (1,100人)	34チーム (237人)	開 会 式 (京 都 市)	○	○	○	○	○	○	○									閉 会 式 (大 阪 市)
ホッケー [米原市]	70チーム (840人)	22チーム (72人)		○	○	○	○	○	○	○	○								
ソフトボール [草津市] [守山市] [東近江市]	182チーム (2,700人)	45チーム (122人)											○	○	○	予 備 日	○	○	○
ボート [大津市]	861クルー (2,000人)	214クルー (306人)								△	△	○	○	○	○	○			
陸上競技 (10kmロードレース) [彦根市]	1,120人	1,082人										○							
カヌー (ドローボート) [大津市]	10人漕ぎ 80チーム 20人漕ぎ 65チーム (2,000人)	61チーム (251人)															△	○	○
計	463チーム 861クルー 9,760人	162チーム 214クルー 2,070人																	

○…競技日、△…練習日・監督者会議等

【オープン競技開催自治体・日程】

競技種目	開催自治体	日 程
パドルテニス	守山市	5月14日(土)・15日(日)
トレイルランニング	高島市	6月19日(日)

Ⅲ スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大 選手の育成・強化等

- 「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」に向け、県、県教育委員会、市町、県スポーツ協会、県障害者スポーツ協会、教育関係、経済産業関係、学識経験者など幅広い主体の参画を得て「滋賀県競技力向上対策本部」を設置、総合優勝である「天皇杯獲得」を目標に競技力向上に取り組んでいる。

[近年の国体成績の推移]

開催年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
開催県	71回岩手	72回愛媛	73回福井	74回茨城	75回鹿児島
総合成績	33位	39位	31位	30位	—
総合得点	888.0点	803.5点	854.5点	870.5点	—

- 令和3年度においては「本国体入賞数75種目以上」を全体の目標として定め、下記6つの基本方針のもと、競技力向上対策を進める。

- ① 第76回国体に向けた競技団体の重点強化種別・種目の設定
- ② 成年選手獲得に向けた新しい雇用制度の構築・運用と選手支援制度の充実
- ③ 少年種別選手への支援拡充とターゲットエイジ強化選手の県外流出の抑止
- ④ 開催年を見据えた優秀な指導者の確保と指導体制の構築
- ⑤ 強化拠点の機能および選手サポート体制の充実
- ⑥ 障害者スポーツの選手・スタッフ構想の具体化と確保に向けた方策の検討

《コロナ禍での影響と対応》

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年に鹿児島県で開催予定であった第75回国民体育大会（本大会）および第20回全国障害者スポーツ大会の延期が決定し、順位を定めないこととなった。

また、本県で開催する第79回国民スポーツ大会についても開催延期が決定したことを受け、競技団体会長会議を開催するなど、競技団体や影響を受ける選手等への経過説明を行い、士気の維持・向上に努めるとともに、各競技団体が感染予防策を講じながら実施する強化活動に対する支援を行った。

【延期決定を受けた競技団体への経過説明】

- ・9月18日 臨時強化スタッフ会議
- ・11月12日 競技団体会長会議

【影響を受けるターゲットエイジ強化選手への経過説明】

- ・知事動画メッセージの配信
- ・ターゲットエイジ強化指定選手・保護者に対する直接説明

○コロナ禍により強化活動が大きく停滞したが、アスリートに向けた医科学的な支援として、WEBやリモート環境を通じた医科学サポートを行ったほか、トレーニング動画を作成し配信した。

- ・ジュニアアスリート向けトレーニング動画の配信 全10本

6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

(1) 東京オリンピック・パラリンピックホストタウン交流

○コロナ禍の中で相手国選手等と直接の交流ができなかったことから、相手国選手と市内小学校児童とのオンライン交流や応援メッセージ動画の送付、相手国選手等も参加できる市民オンラインマラソンなどが実施された。

相手国	合宿地	競技
トルコ	守山市	ゴールボール、視覚障がい者柔道
スペイン	彦根市	ハンドボール（女子）
シンガポール	甲賀市	パラスポーツ
ニュージーランド	米原市	ホッケー（男子）
	大津市	ボート

《コロナ禍での影響と対応》

○相手国選手等を招へいした直接的な交流ができなくなったことから、オンラインを活用した交流を推進した。

【参考 令和3年度の取組状況】

- 事前合宿の受入れにあたり、自治体と参加国チームの双方に感染拡大防止対策の徹底が強く求められていることから、彦根市（スペイン）、甲賀市（シンガポール）、米原市（ニュージーランド・ホッケー）では、事前合宿受入れが取りやめとなった。
- 一方、大津市では、ニュージーランド・ボートチームの事前合宿を7月11日（日）から18日（日）まで受け入れた。直接の交流はできなかったものの、地元中高生による応援メッセージ動画の発信や、練習見学会の開催など工夫した取組が行われた。

(2) 聖火リレーの準備

○聖火リレーの実施が1年延期になったことから、聖火ランナーや県民の皆さんが安心・安全に聖火リレーに参加することができるよう、市町や組織委員会等と連携しながらコロナ対策を踏まえた沿道警備や式典準備等を着実に進めてきた。

聖火リレールート	1日目	高島市→守山市→野洲市→近江八幡市→竜王町→湖南市→栗東市→草津市→大津市
	2日目	甲賀市→日野町→東近江市→愛荘町→豊郷町→甲良町→多賀町→彦根市→米原市→長浜市
聖火ランナー	滋賀県実行委員会選出：43名・1グループランナー (西川貴教、山中慎介、武豊、東レアローズ 等)	

《コロナ禍での影響と対応》

○安心・安全な聖火リレーの実施向け、組織委員会が定めた「感染症対策ガイドライン」に基づき、市町と連携して準備を進めた。

【参考 令和3年度の実施状況】

- 近隣府県が公道での聖火リレーを取りやめた中、滋賀県では、更なる感染拡大防止対策として、全ての式典で吹奏楽等のプログラムを中止するとともに、県民の皆さんに観覧自粛をお知らせしたうえで、5月27・28日の両日に全市町で公道での聖火リレーを実施し、178名のランナーが無事に聖火をつなげることができた。

(3) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会

○2025年に本県で開催する国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の準備状況や競技会場の内定状況は次のとおり。

第3期滋賀県スポーツ推進計画の策定について

■これまでの滋賀県スポーツ推進計画の策定の流れ

○国の動き

H23. 8 「スポーツ基本法」施行

H24. 3 「スポーツ基本計画(H24～H28)」策定

【10年間を見通したスポーツ推進の基本方針（基本的な政策課題）】

- ・年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること。

H29. 3 「第2期スポーツ基本計画(H29～R3)」策定

【中長期的なスポーツ政策の基本方針】

- ・スポーツの「楽しさ」「喜び」こそがスポーツの価値の中核であり、すべての人々が自発的にスポーツに取り組み自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い世界を創る。

R 3. 4 スポーツ庁長官「第3期スポーツ基本計画 (R4～)」策定諮問 ※別紙1参照

○滋賀県の動き

H25. 3 「滋賀県スポーツ推進計画 (H25～H29)」策定

【目指す姿】

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現
～すべての県民が幸福で豊かな生活を営むために～

H27.12 「滋賀県スポーツ推進条例」施行

H30. 3 「第2期滋賀県スポーツ推進計画 (H30～R4)」策定

【目指す姿】

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、滋賀県民であることに誇りを感じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現
～スポーツで滋賀を元気に！ 滋賀の未来を創る！～

H31. 3 滋賀県基本構想「変わる滋賀 続く幸せ -Evolving SHIGA-」策定

【目指す2030年の姿】

生涯を通じた「からだところの健康」

- ・バランスの取れた食事、スポーツ・運動の習慣などにより、健康的な日常生活が送られている。
- ・誰もが居場所や生きがいを持ち、スポーツや文化芸術等に親しみながら心豊かに生活している。

R 2. 8 ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた基本構想の推進方針

- ・施策の柱「滋賀の自然資本や文化芸術の価値の再評価・発信」において、文化や芸術・スポーツに触れる機会の確保と拡充を図る。

■第3期滋賀県スポーツ推進計画の策定について

【検討にあたっての視点】

- ・第2期スポーツ推進計画の総括（指標の達成状況）
- ・滋賀のスポーツを取り巻く環境
 （例）多様な主体との連携・参画、大規模スポーツ大会のレガシーの継承・発展、ポストコロナにおけるスポーツ振興、国スポ・障スポ大会の開催、SDGs（持続可能な開発目標）の理念 等々

○上記を踏まえ、第2期スポーツ推進計画の「目指す姿」、「基本方針」のどの部分を引き継ぎ、新たな課題を盛り込むのか。

○国の第3期スポーツ基本計画や滋賀県基本構想との関連性。 ※別紙2 参照

【滋賀県スポーツ推進計画の審議スケジュール（見込み）】

第2期滋賀県スポーツ推進計画	第3期滋賀県スポーツ推進計画（見込み）	
H28. 5.11 第1回審議会 ・計画策定の方向性 審議	R3. 8. 4 第4回審議会 ・計画策定について	第23期審議会
H28.11.18 計画策定 諮問	R3.11月頃 計画策定 諮問	
H28.11.24 第2回審議会 ・計画の方向性 ・計画に盛り込む内容 審議	R3.11月頃 第5回審議会 ・計画の方向性等 審議	
H29. 2.10 第3回審議会 ・計画骨子(素案) ・基本方針 審議	R4. 2月頃 第6回審議会 ・基本方針等 審議	
H29. 5. 8 第4回審議会 ・計画骨子(案) ・計画の体系 ・計画概要版(素案) 審議	R4. 5月頃 第1回審議会 ・計画骨子等 審議	第24期審議会
H29. 8.18 第5回審議会 ・答申(素案) 審議	R4. 8月頃 第2回審議会 ・答申(素案) 審議	
H29.10. 6 第6回審議会 ・答申(案) 審議・決定	R4.10月頃 第3回審議会 ・答申(案) 審議・決定	
H29.10.13 計画策定 答申	R4.10月頃 計画策定 答申	
~H29.12月 計画原案作成	~R4.12月 計画原案作成	
H30. 1月 パブリックコメント	R5. 1月 パブリックコメント	
H30. 2月 計画原案にパブコメ反映	R5. 2月 計画原案にパブコメ反映	
H30. 3月 第2期推進計画策定	R5. 3月 第3期推進計画策定	

令和3年4月21日のスポーツ審議会総会において、室伏広治スポーツ庁長官から、第3期スポーツ基本計画の策定について諮問。今後、令和3年度中に、第3期スポーツ基本計画を策定予定。

第2期スポーツ基本計画（平成29～令和3年度）等に基づく取組結果

- 競技力強化の戦略的な支援はもとより、スポーツ実施率向上、スポーツ国際戦略、ガバナンス改革等に係る取組方針の策定など、着実に取組を推進
- 成人の週1回・週3回以上のスポーツ実施率、障害者の週1回・週3回のスポーツ実施率は、計画策定時と比較していずれも上昇しているものの、当初掲げた数値目標に向けた進捗としては十分とは言えない状況。また、少子化が進展する中、運動部活動改革、地域における青少年のスポーツ環境の整備が急務の課題
- 各般の取組を国民生活に根差したレガシーとして継承発展させることに加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応はもとより、デジタル化、少子高齢化・人口減少、地域間格差、持続可能な開発、共生社会の実現等、国内外の様々な社会的な課題や潮流を的確に捉えつつ、取組の方向性を明らかにしていくことが求められている
- スポーツにかかわる全ての人の権利の尊重と安全の確保を図るとともに、引き続き、ハラスメントや暴力・体罰の防止、ドーピング違反の防止、スポーツ団体の健全・適正な運営の確保の徹底を図らなければならない



第3期スポーツ基本計画の策定に当たり、次の事項を中心に審議を依頼。

第3期スポーツ基本計画の策定について（諮問）

第一 未来社会における生涯を通じたSport in Lifeビジョン等を含め、2030年以降を見据えたスポーツ政策の在り方の提示

（踏まえていただきたい観点）

- ・ スポーツ基本法の理念、スポーツ庁設立の趣旨、第2期計画の成果と課題
- ・ 東京大会をはじめとした大規模スポーツ大会の自国開催に係るレガシーの継承・発展
- ・ 予想される社会の変化を踏まえた、来るべき社会像
- ・ 「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念やユネスコのカザン行動計画等の国際動向

第二 今後5年間のスポーツ政策の目指すべき方向性及び主な施策、計画の実効性を高めるための方策の提示

（踏まえていただきたい観点）

- ・ 障害者、女性、子供、高齢者等、多様な主体の参画
- ・ スポーツ団体、他の行政機関、地方公共団体、学校（大学及びUNIVAS等を含む。）、民間事業者、研究機関等との連携・協力
- ・ デジタル技術をはじめとした新技術やデータの活用
- ・ 多様な財源・資源の安定的な確保、戦略的・効果的な活用
- ・ 各々の政策目標や具体的施策の達成状況に係る検証・評価
- ・ 地方スポーツ推進計画等の策定に当たっての指針としての活用

スポーツ推進審議会委員任期と滋賀県スポーツ推進計画等の策定期期

別紙2

